〈安全デー一斉斗争ニ関スルビラ別紙参照〉 午后六時半頃

右ニ付廿日ヨリ一日ニカケテ総罷業気分トナリ

七月二日午后四時半市電当局ニ於テハ断乎解雇処分ヲ下シ

幹部廿五名ヲ馘首セリ。

二日夜共和会本部ニ於テハ直ニ従業員大会ヲ開催

シ新ニ又実行委員廿名ヲ選ビ

(1) 復職嘆願 (2) 当分ノ間ハ組織嘆願解決迄更ニ実施スベキコトヲ決

定セリ。

七月三日 果然翌朝電車ハ正午マデ約半数ノ出勤

有リタルニ過ギズ電車ノ運転台数モ平常ニ比シ

五、六十台減少デアリタ。

七月三日午前十時半 青越、北内、官田ガ十五名ノ実

行委員ハ和田局長ヲ訪ヒ、

「今般生来生田両君ガ一部ノ従業員ト市民ニ迷

惑ヲ掛ケタガ之ハ私ノ責任ナリ 本部ヨリ

命令ガ出タル以上ハナカッタカラシテ致シ方ナキ事、従業員ノ遅刻者

ハ出勤ト認メラレタイ」ト述ベ 和田局長ハ、諸君ノ

穏健ナ態度ハ交通機関ニ携ハルモノトシテ感謝スル

只今ノ希望ニ対シテハ充分考慮シテアゲル

ト答ヘ、更ニ責任ハ今後ハ絶対ニ犠牲者ヲ出サヌ様ト云フ

ガ局長ハ犠牲者ヲ出スコトハ当局ニ於テモ好ム所デナイ故ニ

真面目ニ勤務シテイル者デアルベク今後トモ断然ナル処置

ヲ講セナイト述ベタ。